

3支所廃止に向け説明会

行政の簡素化で、財政再建を

行政の簡素化と財政再建のため、市は三支所（領石、岡豊、十市）の廃止を決め、五月十三日から関係六地区で説明会が始まりました。

市の財政は、開発公社へ約二十億円の大きな借金をかかえ、また地方交付税の削減や高率補助金の一割カットなど、国の行政改革の影響を受けつつ縮小傾向のものとなっています。

その中で、人件費や民生費、公債費（借金の返済）などの経常的経費は年々増加。このため昨年五月、庁内組織として行政改革事務改善委員会を設け、行政の簡素化、効率化による人件費削減などを検討し、支所廃止の方向が決まった。

昭和三十四年、市合併のときに領石、岡豊、三和、十市に支所四支所を出張所が置かれました。そして三十五年には日章出張所を廃止し、さらに財政再建のため五十七年には、三和支所も廃止されています。

今回の支所廃止の理由としては、以上のような厳しい財政事情とともに、次のようなことが挙げられています。

- ①支所では、戸籍、住民登録、印鑑登録の届け、証明の三つの業務に限られ、保険や年金の手続き、児童生徒の転入などは、本庁に足を運ばなければならない。
- ②建物の老朽化が激しく、戸籍等の重要書類の保管に問題もある。
- ③合併から二十五年を経過、自家用車も普及し、また、本庁の管内である前浜、久枝地区と比較しても距離的にあまり変わらない。

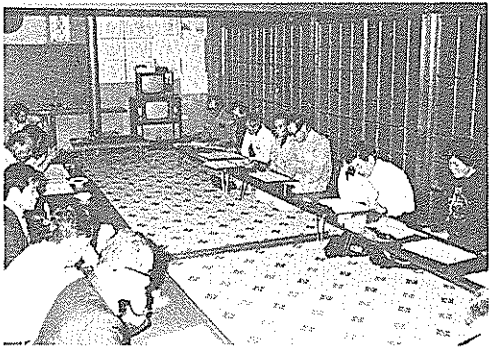
各地区への意見は...

岡豊地区

支所設置は、市合併のときの約束事であり、廃止は納得できない。昭和三十四年の合併協議書で、四支所を設置することになっていますが、二十五年間の社会情勢の変化と、市財政の厳しさを理解していただき協力を願いたい。

最も困るのは、車に乗れないお年寄りたちだ。この人たちに不便を感じさせないような方法を、何か検討しているのか。

簡単な事務については郵送で、



初日の岡豊地区では、職員への厳しい意見も聞かれた

久礼田地区

領石支所は、奈路、瓶石地区も含まれており、本庁に遠いところの意見を聞いてもらうことも必要だ。

今後、両地区での説明会も決まっております、そちらの意見も大切にしたい。

もし、廃止が決まり取り壊された後の土地はどうするのか。

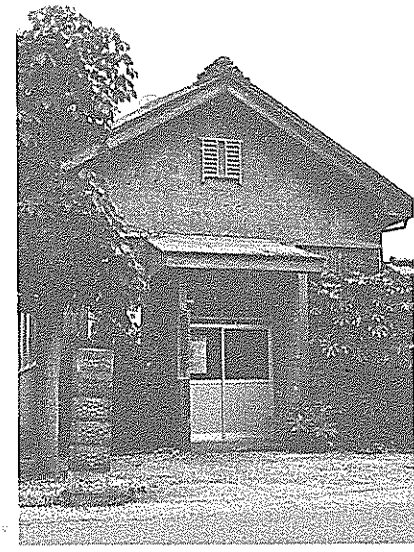
売却することは考えていません。あの土地は植野地区の寄付であり、やはり跡地は公共的な利用を考えています。

私たちがだけの意見でなく、広く

十市地区

十市は交通の便が悪く、廃止には絶対反対。まるで住民泣かせの行政ではないか。今後、パークタウンの工事も進み、人口も増えることからむしろ支所の充実をすべきだ。

不便をかねて申し分けないが、財政健全化のため、また二十五年間の社会状況を考慮していただき、ご協力を願いたい。不便さの解消のため、まだ具体的な話は進んでいないが、各農協を利用することなども考えています。パークタウン



廃止が検討されている領石支所

白木谷、奈路、瓶岩地区

できると思う。『県下の市町村でも南国市の給料が良いと聞くが、そんなところも問題だ。』不便さを補う手立てを、もっと具体的に示してほしい。

そのほか、「私たちが行政改革に協力しなければならぬと思うが、老人や婦人が犠牲になるのは反対だ。『本庁内での改革がまず必要ではないか。』市職員は市民に恥じない勤務をしているか疑問だ。『助役の二人制は必要があるのか。』

なお、十市地区は市政懇談会の形で開かれ、地元から六十人が出席。北村謙一公民館長から、支所廃止反対の請願書と住民の署名簿が市長へ手渡されました。



廃止反対の請願書も出された十市地区説明会

審議会の答申からも支所廃止の方向が決まり、五十七年には三和支所も廃止されています。今後、事務簡素化、効率化を進め、財政再建のため積極的に行政改革に取り組んでいきたいと思えます。

そのほか、「できれば存続してほしいが、市の財政を考えると仕方ないという雰囲気もある。『行政の改革で生まれたお金は、地域発展の事業に有効に活用してほしい。』弱者切り捨てとならないような行政を。『雇用の窓口業務を早く実現してほしい。』本庁から遠い所の住民の犠牲を最低限度にとめてほしい。』

支所廃止により、今までより不便になることは明らかであり強い反対の声も多く出ましたが、一方、厳しい財政を考えると仕方もないので、早く健全財政にし地域整備に努めてほしいなど、各地区で意見が多少異なっています。

また、六回の説明会の中で特に、市職員に対する厳しい意見と、本庁での改革を強く望む声が目撃的でした。

市としては今後、これらの意見をまとめ、廃止によって著しいサービス低下にならないような手立てを、さらに検討していく考えです。